

善きもの

2025. 2. 7

長きにわたり人生を歩んでくると、誰しもが試練というものを経験してきているのではなかろうか。そして、その試練を乗り越えて今がある。試練の中でも、最大の試練というものがあるかもしれない。どうにもこうにも事態を開けできないような苦しい状況に陥ることがある。もうだめだとあきらめてしまうかもしれない。それでも、人は前に進む。本能的に生きようとする。がんばろうとする。這い上がろうとする。

たぶん、人には誰しも、一刻一刻、周囲がその人にこれをしなさいと言っているものがあるよう思う。それを丹精を込めてやるのが、与えられた使命なのかもしれない。

イタリアの神学者であるトマス・アクィナスの言葉に「すべて存在するものは善きものである」というものがある。自分の思い通りにならなくて、愚痴や不平不満を漏らす人は多い。けれども、存在するものはすべて善きものだと思えば、人を恨むこともなくなるし、辛いことがあっても人生が楽しくなるかもしれない。

とはいっても、なかなかすべてを善だとは思えないだろう。すべてが善だとしたら、悪はないのかという問題が出てくる。もはや哲学の世界である。悪があるのではなくて、善がないのが悪であるという考え方もある。

大切なのは、見方や考え方を変えるということだろう。「我以外皆我師也」という言葉もある。吉川英治氏の言葉とされているが、吉川英治氏が著書『宮本武蔵』の中で、主人公の宮本武蔵に言わせた台詞である。

これと似た言葉がある。「学ぶ心さえあれば、万物はすべてこれ我師である」というものである。これは、経営の神様と呼ばれた松下幸之助氏による。自分以外の人やもの、すべてが自分の足らざるを教えてくれる。そんな謙虚な心持ちで生活することで、人はより磨かれていく。

この前、何気なくテレビを見ていたら、黒柳徹子さんが出ていた。黒柳さんは、どんな若い人でも尊敬して接しているという。「徹子の部屋」が続く理由を垣間見た気がした。謙虚にならなければ、若い人を尊敬するのはむずかしい。

人は、どんな試練があろうとも、どんな試練が待っていようとも、心持ち次第である。見方を変えることで、急に見える景色が変わることがある。すると、考え方も変わっていく。その積み重ねにより、すべてが善きものになっていくのかもしれない。道は遠く、険しいが、それを追い求めることに価値がある。